

Jack William Edouard HEUER

ジャック・ウィリアム・エドワード・ホイヤー タグ・ホイヤー/元名誉会長



1932年11月19日/スイス、ベルン生まれ。①電気工学の学位を取得後、1958年に家族が経営するホイヤー社に技術者として参加。62年、エドワード・ホイヤー・アンド・カンパニーSAの筆頭株主。64年、ライバル関係にあったレオニダス・ウォッチ・カンパニー社を買収し、ホイヤー・レオニダスSAに社名変更。同年、初代「カレラ」発表。82年にホイヤー・レオニダスSAを離れるが、99年にタグ・ホイヤーがLVMHグループに加わったのを機に、名誉顧問として招聘される。2001〜13年まで名誉会長。②名誉会長就任後はブランド・マーケティングを訪問し、タグ・ホイヤー・ミュージアムのアドバイザーを務める。2014年に自伝「TIMES OF MY LIFE」を上梓。③初めての時計は懐いていませんが、スイス軍の士官学校卒業時に、父から手巻きの金時計を贈られました。④—— ⑤——

Patrik P. HOFFMANN

パトリック・P・ホフマン ユリス・ナルダン/CEO



1964年11月30日/スイス、ライツゴツヴィル生まれ。①1999年、北米およびカリブ海地域を管轄するユリス・ナルダンの新フェイスプレジデント兼マーケティングディレクターに就任。2008年から全世界の営業およびマーケティングを統括するフェイスプレジデントを務める。突然訪れたロルフ・シュネーダー氏の死後、CEOに指名された。②フェイスプレジデントに就任後、強力な指導力を発揮し、米国およびカリブ海地域におけるユリス・ナルダンの存在感を飛躍的に高めた。10年、米国に初のモノブランドブティックをオープンさせた。③オリス。④スイスの高級時計ビジネスにおいては、本物の歴史やタイムピースに宿るクラフツマンシップがより大切な価値を持ちます。コンプリケーションは実用性を伴って初めて独自性や貴重さが認められるのです。⑤ユリス・ナルダン「フリース」。

Jörg HYSEK

ヨルグ・イゼック HD3/共同創業者



1953年5月14日/ドイツ、東ベルリン生まれ。①1973年、彫刻を学ぶためにロンドン・アカデミー・オブ・アーツに留学。2年後、スイスに戻り、ロレックスのデザイン部門に勤務。独立してイゼック・スタイリングを設立する。ヴァンシュロン・コンスタンタン、プッシュロン、カルティエ、スヴェル、ティファニー、タグ・ホイヤーなどのデザインを手掛けた後、HD3を設立。②財務的プレッシャーがない環境で、創造する自由を得たこと。③12歳の頃にもらったオメガ。④高級品の需要はいつの時代にも存在します。より巧みな手法で、他の良い方をするなら派手ではない手法で……。独創性と想像力を持つ、腕の良い料理人のように、ウォッチメイキングも本来の価値を取り戻してゆくでしょう。⑤——

Stefan IHNEN

ステファン・イーネン IWC/開発設計責任者



1973年8月18日/ドイツ、オーリッヒ生まれ。①1992年より時計師としてのキャリアを経て、2002年よりIWCに入社。10年より現職。②—— ③—— ④技術面で述べれば、機械式時計を多種多様な観点から考えるようにしています。現在進められている自社ムーブメントの増産、新素材の採用、新しい複雑機構の開発、または既存ムーブメントとの複合ムーブメントの開発など、時計について、ケース内部にあるものがこれまでに重要になると考えています。技術開発のあり方が他社との差別化において鍵となることでしょうか。⑤ポルトギーゼ・オートマティック(Ref.5001 SS/白文字盤/ブルーインデックス)はここ数年で、よく売れているモデルです。大切な人にごこのモデルを贈る時は私も幸せになります。

François-Paul JOURNE

フランソワ・ポール・ジュールヌ モントル・ジュールヌ/代表



1957年3月22日/フランス、マルセイユ生まれ。①マルセイユにハリの時計学校で学び、その後、叔父の下でアンティークウォッチの修復に携わる。82年に自身のトゥールビヨン懐中時計を完成させ、99年より自身の名を冠したコレクションを発表。②モントル・ジュールヌ社の創設者兼代表として現在もすべてのコレクションの設計からデザインに至るまで本人が行う。「ジュネーブ・ウォッチメイキング・グラプリ」では2004年、06年、08年、最高の栄誉である「金の針賞」を受賞。③5歳の時に持っていた懐中時計。「ヘベ・ガダム」(せっけんの銘柄)と呼んでいた。④ビジネス戦略はありません。今まで通り時計製作に真摯に向き合い、今日まで続けてきた仕事を続けるだけです。⑤私は自分の製作したすべての時計を愛し、すべての友人を大切に思っているため、一番を決めることはできません。

Bruno JUFER

ブルーノ・ジュファー エテルナ/マーケティング&セールス担当副社長



1965年7月13日/スイス、グレンベン生まれ。①2007〜09年、カール・F.ブレア取締役副社長兼マーケティング担当を務める。2010〜14年にアントワヌ・マーティンCEOを務め、その後、現職。②ブランドをゼロから展開したアントワヌ・マーティンへの業績。ブランドイメージの形成から始めて、3つのフェーズ(コレクションを展開、ディストリビューションネットワークを構築)③グレンベンで時計師をしている父が組み立てたムーブメントの時計。父との思い出を多く持つ私にとっては価値のある時計です。④大切なのはスイス時計であること、そして革新と伝統です。製品の品質が完璧なこととはとても重要ですが、クリアな戦略とバランスの良い製品構成もとても大切です。また私は一貫したコミュニケーション・ミックスも重視しています。⑤エテルナの新作Graceを美しい妻に贈りたい。

François JUNOD

フランソワ・ジュノー オートマタ作家



1959年2月24日/スイス、サントクロワ生まれ。①13歳の時、友人の父親のオートマタ作家、ミッシェル・ベルトランに師事。1978年に最初の工房を設立。20歳の頃からオートマタ製作を手掛ける。80年にサントクロワの技術学校を卒業後、83年までロザンヌのボーザール美術学校でデザインと彫刻を専攻。②サントクロワに開設されたシマ博物館から依頼を受けて、84年にロボトを製作。その後、ブランパンの依頼でエロティック・オートマタを製作したり、かつてビエール・ジャック・ドローが製作した「製作」を複製したり、名だたる時計メゾンからも依頼を受け、これまでに数多くの作品を手掛ける。③オメガ。④—— ⑤パテック フィリップ。

Caroline GRUOSI-SCHEUFELE

キャロライン・グルオジー・シヨイフレ ショパール/共同社長



1961年12月14日/ドイツ、フォルツハイム生まれ。①ジュネーブ インターナショナルスクールを卒業後、デザインおよび宝石学を学ぶ。その後、ショパールに参加。85年に共同副社長、2001年、共同社長に就任。②1985年、ハッピーダイヤモンド コレクションより、ジュエリーラインを発表。98年にはカンヌ国際映画祭のオフィシャルパートナーとなり、パルム・ドールのデザインを担当。2007年、レッドカーベット コレクションを発表。③ミッキー・マウスウォッチ。④確かなクオリティと伝統を保ちながら、いかに独創性を打ち出すことができるか、特別な体験を提供できるかが成功の鍵となるでしょう。⑤——

Ricardo GUADALUPE

リカルド・グアダルルーベ ウプロ/CEO



1965年3月5日/スイス、ヌーシャテル生まれ。①1988〜94年、ブルガリのプロダクトマネージャーを務め、95〜96年、ブランパンのブランドマネージャー、97年、同社セールス&マーケティングディレクターに就任。2001年に独立。04年よりウプロのマーケティングと製品のコンサルタントを務める。05年、マーケティングディレクターに就任。12年から現職。②08年、ジャン・クロード・ビバールとともにウプロのサッカー界進出を推し進めた。今ではワールドカップのオフィシャルタイムキーパーを務めるほどの地位を確立。③ヌーシャテルで作られた「MICROMA」というスイス時計。④常に技術革新との適合に尽力していくこと。しかし、自らのルーツを忘れてはならない。これが成功への鍵だと考える。⑤「ピッグ・パン・ウニコ オールブラック」を息子のデイエゴに。

Takahiro HAMAGUCHI

濱口尚大 ヴォーシェ・マニファクチュール・フルリエ/ムーブメント開発責任者



1977年6月15日/山口県下関市生まれ。①2008年8月からオデマ・ピゲのムーブメント開発部長(ル・ブラッシュ)。12年10月から現職のヴォーシェ・マニファクチュール・フルリエのムーブメント開発部長(フルリエ)。②チームワークが大切なムーブメント開発において、チームを作り育成し、それを乗上げてきたことが誇りです。③高校1年生でニュージーランドへ語学研修に行った時に買ったアンティークのイギリス製懐中時計。④高級時計製造工場での工業化、自動化が進む今、ブランドと消費者の間で高級時計というものの定義に溝が出来てしまったように思われます。これからは、仕上げ、装飾などで本当に人の手が触れた時計をどこまでミドルレンジの高価格帯で提供できるかが、高級時計のキーポイントになるのではないのでしょうか。⑤将来、妻のイネスと一緒に制作する予定の時計。

Shinji HATTORI

服部真二 セイコーホールディングス/代表取締役会長兼グループCEO、セイコーウォッチ/代表取締役社長



1953年1月1日/東京都生まれ。①1975年、慶應義塾大学経済学部卒業後、三菱商事に入社。84年にセイコーの製造会社のひとつである精工舎に入社。2003年、セイコーウォッチ代表取締役社長に就任。10年、セイコーホールディングス代表取締役社長に就任。12年に同社代表取締役会長兼グループCEOに就任。②06年、「スプリングドライブ」を発表。11年、「スプリングドライブ ミニッツリビーター」を発表。12年、世界初のGPSソーラーウォッチ「セイコー アストロ」を発表。③父に譲ってもらった「グランドセイコー」。④創業者の言葉「常に時代の一步先を行く」という信念に基づき技術革新、市場のニーズを察知しとらえること、そしてその先にある「心躍る」時計を世界の人々に届けていくこと。⑤ビジネスパーソンであれば、「セイコー アストロ」。女性には「クレドール」。

Marc A. HAYEK

マーク・A・ハイエック フレゲ、ブランパン、ジャケドロー/社長兼CEO



1971年2月24日/スイス、ルツェルン生まれ。①1992年からウォッチのPR&マーケティングアシスタント、サーチナのマーケティングマネージャーを経て、チューリッヒの腕時計ブランド「オナー」に。2001年、ブランパンのマーケティング担当フェイスプレジデント、02年より社長兼CEO。10年に世を去った祖父のニコラス・G・ハイエックの後を継いで、現在はフレゲ&ジャケドローのトップも兼任。②流通と顧客サービス向上のためにシステムを再構築。05年にスイス初のブランパン・ブティックをジュネーブに開設。同年、ル・ブラッシュの工房をリニューアル。③ティン。④高級時計の需要は品質に比例して増加してきている。したがって、製品をさらに絞り込んで品質を向上させ、非常に高い水準を自らに課し、常にブランドを定義付け、信頼性を維持しなければならない。⑤——

Nayla HAYEK

ナイラ・ハイエック スウォッチ グループ/会長、ハリー・ウィンストン/CEO



①ヨーロッパ大学(スイス、モントルー)博士号。1995年、スウォッチ グループ取締役、2010年5月12日、同副会長。同年6月30日より同会長。また、13年5月よりハリー・ウィンストンCEO。②世界アラブ馬機構(World Arabian Horse Organization)のメンバーおよび国際審査員として、スウォッチ グループの数々のビジネスとプロモーション活動に携わる。スウォッチ グループ・ミッドルースト(UAE, ドバイ)の現場も指揮。ハイエック・グループ取締役、ベレノス・クリーンワーム・ホールディング取締役等も兼任。ひとり息子であるマーク・A・ハイエックは、フレゲ、ブランパン、ジャケドローの各社長兼CEO。③スウォッチ。④マーケットでの勢いと成長を維持する。⑤「ハリー・ウィンストン ザ・アヴェニュー・コレクション」。新作モデルのどれかを母親に。

Ulrich W. HERZOG

ウーリック・W・エルゾック オリス/会長兼CEO



1948年6月10日/スイス、バーゼル生まれ。①バーゼルで経済学を専攻。1978年、マーケティングマネージャーとしてオリスに入社。マーケティングディレクターを経て、2001年に会長兼CEOに就任。05年に、各国の関連会社と新たに形成されたオリス・グループの会長に就任。②「機械式ムーブメントを搭載し、かつ魅力的な価格の時計」という戦略を実行。これは他の製造業者が、機械式腕時計の価値を再認識する以前の1985年に明確化された。③父から贈られたオリス。④誇大広告によって、非現実的な価格で時計を販売してきたハイブランドの中には、覚悟を見せることも出てくるでしょう。逆に足掛かりを得て成功した企業は、ムーブメントや素材の技術革新を行うでしょう。当面、高級時計は機械式を採用するでしょうが、オリスではこの点を楽観視しています。⑤——

Yann GAMARD

ヤン・ガマー グラスヒütte・オリジナル/マネージングディレクター



1957年/フランス生まれ。①ローザンヌビジネススクールにてMBA取得後、プロクター・アンド・ギャンブル(P&G)、カルティエ、スウォッチでファイナンスにおけるさまざまなポジションを経て、1998年よりスウォッチ グループの取締役。2011年よりグラスヒütte・オリジナルのマネージングディレクターを務める。②ブランドの国際化、特にアジア圏でのブランド認知力の拡大、グラスヒütteの工場建物の再建および近代化、レディスコレクションを中心としたコアコレクションの強化(レディスコレクション「ソフィア」発表)。③スウォッチ。④我々のビジョンは、常に最高のものをお届けすること、時計作りの伝統を守り尊重すること、革新し続け、精密さやドイツのデザインおよび技術力に正直であること。⑤妻に私たちの新しいレディスコレクション「ソフィア」のモデルを贈りたい。

Paul GERBER

ポール・ゲルバー ポール・ゲルバー/オーナー、テクニカルウォッチエンジニア、時計師



1950年1月31日/スイス、ベルン生まれ。①時計師として通常の訓練を受け、組み立て技術と時計製造技術を独学で習得した。②1989年製作の世界最小木製時計と2003年製作のルイ・エリ・セグに由来するエポッシュムーブメントを搭載した世界でも複雑な腕時計がギネスブックに認定。1997年に「レトログランド・セコンド」を製作。2001年、これを基にしたフタのローターを搭載した「レトロフイン」で特許取得。04年、「モデル33」製作。ガイア賞を07年に受賞。12年に、「モデル41」を発表。③「CYMA Automatic」。④2014年のバーゼルワールドでは、特別製のトリプルローターと日本の陶器工房とのコラボレーションで作られた、手描きの陶器製ダイヤルを持つ時計をお披露目する予定です。⑤妻にプレゼントした初回限定版の「レトログランド」。今でも誇りに思っています。

Eric GIROUD

エリック・ジルー Through The Looking Glass/社長兼デザイナー



1964年11月11日/スイス、ラ・ショー・ド・フォン生まれ。①芸術、文化、音楽にかなり深い頃から傾倒し、熱狂的であり世界観は年を追うごとに洗練されていった。1990年に自身の建築スタジオを開設。98年には自身のデザイン・エージェンシーを設立。その後も芸術への最上の敬意を持ってデザインを制作するために、さまざまな分野のアートと絡み合っている。②2012年、ジュネーブ・ウォッチメイキング・グラプリ、男性時計「パブリック部門」、MB&F「Legacy Machine No.4」。13年、レッド・ドット・アワード製品部門グランプリ、スワフスキー「Crystal Machine Watch」。ほか多数。③19歳の時、スウォッチのバージョン「モデル」。④—— ⑤F.P.ジュリス「クロノメーター・レゾナンス」。魔法のようなロマン主義的なアプローチの時計作り。

Pierre Michel GOLAY

ピエール・ミッシェル・ゴレイ ウォッチランド/技術開発部門最高責任者



1935年生まれ。①1959〜64年、パテック フィリップでグランド コンプリケーションの製作に携わる。その後、70年までオパールの世界に戻り、ジュネーブでプロ歌手として活躍。オデマ・ピゲのグランド・コンプリケーションの開発に73年まで参加した後、ジェラルド・ジェンタに出会い、グランド・コンプリケーションをジェラルド・ジェンタのブランド名で発表することに同意し、ジュネーブとル・ブラッシュに工房を開設。93年、ジェラルド・ジェンタとの25年に及ぶ協力関係を終え、2002年までジュネーブ時計学校で教鞭を執る。フランク・ミュラーとの協力関係が始まると、フランク・ミュラー ブランドの研究開発部門長に就任。08年には自身のブランドがデビュー。②エテルニタス・シリーズ、エテルニタス・メガレピュレーション・シリーズの開発に携わる。③—— ④—— ⑤——

Bruno GRANDE

ブルーノ・グランデ ジャンリシャール/マネージングディレクター



1974年12月16日/イタリア生まれ。①1995年、IAAF(国際陸上競技連盟)を経て、2000年にスウォッチ グループへ入社。05年、同グループ全ブランドのためのパートナーシップおよびスポーツ・マーケティングに携わる。12年、ミケーレ・ソフィスティの運営するビング・グループに所属後、ソウインド グループへ入社。13年にジャンリシャール COOに就任。14年、同社のマネージングディレクターおよびプライベート・レーベル部門責任者に就任。②—— ③スウォッチ。④真のラグジュアリーとは、透明性があり、偽りがないことが大切だ。伝統とコストパフォーマンスの尊重も重要。ジャンリシャールのコンセプトである、フィロソフィ・オブ・ライフのように新しいものを見いだす勇気を持つ意味も含む。価値の再発見が今後のキーとなる。⑤製作中の女性によって開発された女性のための時計。

Robert GREUBEL

ロベール・グルーベール グルーベール フォルセイ/時計師



1960年1月19日/フランス、アルザス地方生まれ。①代々続くロベール時計店に生まれ、父の傍らで7歳から時計の基礎を学ぶ。1987年よりIWCでグランドコンプリケーションの製作を担当。90年にはルノー・エ・パレの開発責任者となる。99年に独立。2001年、ステファン・フォルセイとともに「シエラ」シリーズを設立。04年に共同でグループ フォルセイを立ち上げる。②14年「[OP a Equation]をSIHHで発表。③フランス製の手巻き時計。④精度のあくなき追求と価値の保全。すべてが限定生産・販売であり、コレクターたちが納得し、満足し、進化を続けるコレクションのロイヤルコレクターであることがグループ フォルセイの発展を支えている。ロベール・グルーベール、ステファン・フォルセイ、そして志を同じくするチーム、理解者であるコレクターの時計に対する共通の思いでもある。

Fawaz GRUOSI

ファワズ・グルオジー ドゥ・クリソノ/創業者兼クリエイター



1952年8月8日/イタリア、フィレンツェ生まれ。①18歳でジュエリービジネスに関わり、その後、ロンドンで本格的にキャリアをスタート。1993年に自分自身のブランドを設立。2000年、初の時計コレクション「ウ」をバーゼルで発表。②05年に初の複雑時計「ミニッツリビーター「オックス」」を発表。創業15周年の08年に「メカニクス」&「オートラトル」を発表。前者は09年ジュネーブ時計「パブリック賞」を受賞。③16歳の時に手にした「Caetania」。イタリアで時計に没頭し、④時代に合わせてデザインを変えたり、コスト計算をして素材を変えたりすることは一切しない。本当に重要なことは常に革新的で創造力にあふれ、強がる製品をつくること。この姿勢はデザインの面でもビジネスの面でも今後ますます重要になるだろう。⑤娘の名前でもある新作「アレグラ」。

Jean-Frédéric DUFOUR

ジャン=フレデリック・デュフォー セニス/社長兼CEO



1967年12月3日/スイス、ジュネーブ生まれ。①ジュネーブ大学理工学部を卒業後、スウォッチ グループ、ユリス・ナルダンなどの製造部門、営業部門、マーケティング部門、経営管理部門でキャリアを積み、2009年6月1日付でセニス SAの社長兼CEOに就任。②セニスの歴史や素晴らしい点を加味した上で、現代性とエレガンスを兼ね備えたセニスコレクションを作り上げた。2011年、Best complicated watch category「アカデミー・クリストファー コロンブス イクエーション オブ タイム」。13年、Sports Watch category「エルプリモ ロストラス、ストライキング 10th フェリックス・ストライク・モデル」のGPHG賞を受賞。③ティン。④クリストファー コロンブス コレクションのようなハイエンド・メカニズムウォッチに注目。⑤レディ・パイロット ウォッチを妻に。

Philippe DUFOUR

フィリップ・デュフォー フィリップ・デュフォー/独立時計師



1948年6月3日/スイス、ル・サンティエ生まれ。①ル・サンティエ時計学校を卒業後、ジャガー・ルクルト、ユニス・イム、ジェラルド・ジェンタ、オデマ・ピゲなどで勤務した後、1978年に独立時計師となる。コンプリケーションウォッチの修復を手掛けた後、92年に腕時計初の「グラブ・ブチノリ・ミニッツリビーター」を完成させ、同時に自らのブランドを立ち上げる。②96年「デュアリ」を発表。2000年「シンプリシティ」を発表。③12歳のときに祖父から贈られた「Tel」というブランドのクロノメーター時計。④素晴らしい付加価値を持ったオリジナルの製品は、経済危機を乗り越えたいと思います。真の高級品とは、トレーサビリティ(生産履歴管理)と、誠実さと、透明性を備えた製品のことで。⑤もちろん、「シンプリシティ」です!!

Oliver EBSTEIN

オリバー・エブシュタイン クロノスイス/オーナー兼CEO



1975年生まれ。①チューリッヒの高校を卒業した後、ローザンヌとマドリッドで学ぶ。マドリッドのIE UniversityでMBAを取得。企業金融からキャリアをスタートし、その後は特にサプリメント食品や医薬品の分野で国際的な生産・運営を展開する中堅企業数社において管理職を務める。5年前に経営コンサルタントとして独立。中小企業の後継者育成と財政再建に携わる。2012年2月、クロノスイスのオーナー兼CEOに就任。一方で、ベルンにある伝統的なアルヌーボー様式のホテル「ベル・エボック」の取締役会役員をはじめ、さまざまな会社の役員も務めている。②—— ③—— ④—— ⑤——

Manuel EMCH

マヌエル・エムシュ ロマン・ジェローム/CEO



1972年4月24日/スイス生まれ。①トゥール・デ・バイルスのアートセンターでデザインを学んだ後、ローザンヌ大学経済経営学部(HEC)で経営学修士号を取得し、卒業。②高級時計ビジネスにおいて、ジャック・ドローのブランド再構築を確立し、ブランドのポジティブなイメージを刷新した。数々のウォッチデザインアワードを受賞。2010年1月、ウォッチメイキングの世界に新風を吹かせるべく、ロマン・ジェロームのCEOに就任。さまざまなクリエイティブ・ビジネスに意欲を注ぎ、卓越したイメージ戦略とともに世に送り出している。時計ビジネスと並行して、モダンアートに対してのも情熱を持ち、選り抜かれたコレクションを収集している。③今でもまだ持っている祖父からもらったスウォッチ。1993年発売の初期モデルで、黒文字盤に黒ベルトの時計。④—— ⑤私——

Laurent FERRIER

ローラン・フェリエ ローラン フェリエ/創設者、アーティストディレクター



1946年、スイス、ジュネーブ生まれ。①—— ②1968年、ジュネーブ時計学校を卒業後、パテック フィリップに入社。「ウォッチデザイナー」が存在しなかった時代に新製品のデザインを任される。2008年、同社退社後、宝鐘の時計師、エンリコ・バルバシオニ氏、ミッシェル・ナバシエとともに、自身のブランドを創設し、10年のバーゼルワールドでデビューを果たす。同年、「The Galet Classic Toubillon Double Spiral」がGPHGのメンズウォッチ部門を受賞。③12歳の誕生日に父親からもらった今も持っている「Orator watch」というブランドの時計。④腕時計製作の世界で、伝統を重んじ、手仕上げによる職人技やエナメル技法に価値を見だし、それを楽しまるよう追求できる職人はいつの時代にも存在すると信じている。⑤私は最も愛する人に「ガレ・マイクローター」をずっと贈らう。

Carole FORESTIER-KASAPI

キャロル・フォレストイエ・カザピ カルティエ/高級機械式時計ムーブメント開発責任者



1968年5月27日/フランス、パリ生まれ。①ラ・ショー・ド・フォン専門学校にて時計の修理と製造を学ぶ。1992〜97年、オデマ・ピゲ、ルノー・エ・パレの技術研究開発部責任者を務める。98〜99年、ユリス・ナルダンのムーブメント技術者を経て、99年より現職。②セニスエリート・シリーズのクリエイター。Breguet Prize トゥールビヨン、ピアジェ向けのRealif トゥールビヨン。カルティエ向けリポート オルジョーリ コレクション、ベーム・ブメントコレクション。97年に「カルセリ・セントラル」でフレゲ賞を獲得。③18歳の誕生日に贈られたホワイトゴールドのペンダントウォッチ。④—— ⑤私にとって、最も大切な人に贈るのものはなく感情に訴えかけるものです。時計ならばそれが可能だろうと、私は思い描いています。

Stephen FORSEY

ステファン・フォルセイ グルーベール フォルセイ/時計師



1967年3月28日/イギリス、セントアルバンス生まれ。①1992年、ルノー・エ・パレに入社後、ロベール・グルーベールのチームに配置され、さまざまな開発に携わる。退社後もグルーベールと仕事を続け、2001年にコンプリケーションを設立。04年に共同でグループ フォルセイを立ち上げる。②同年「ダブルトゥールビヨン30」。05年「クワダブルトゥールビヨン」。06年「トゥールビヨン24セコンド」を発表。その後も2項式テンプレーション、均等化ディファレンシャルギア、2重テンプレーションを発表。11年には国際クロノメーターコンクールでダブルトゥールビヨン30「テック」が1000点中915点の最高得点で優勝。12年「アンペンションピース2」がジュネーブ・ウォッチメイキング・グラプリの複雑時計部門を受賞。③9歳の頃に大事にしていたインガソルの機械式時計。④—— ⑤——